

「差額ベッド料」は不要です

「謝礼」や「付け届け」は不要です

人権を守る医療・介護をめざします

保健・医療・福祉のネットワークで対応します

岡山医療生協の4つのこころ

かりゆし

発行日 2012年3月1日
 発行者 岡山東中央病院
 岡山医療生活協同組合
 岡山市中区倉田677-1
 TEL 086-276-3711
 FAX 086-277-5556



当院理学療法士から 患者様のベッド環境を よりよいものに

数年前、入院初日の夜にベッドから離れようとした患者様が転倒したことがあり、それがきっかけで安全なベッド環境について考えるようになりました。リハビリテーション科理学療法士として、患者様がより良い環境で入院生活を送っていただくことを念頭に、入院時のベッド環境の評価に努めています。入院時の環境を整備し、転倒予防に努めるほか、呼吸器の評価も行い、肺炎の危険性の高い方への早期対応をはかりました。評価後は入院直後の転倒がなくなり、肺炎への対応も迅速化しました。



インフルエンザが流行っているこの時期、親が子のおでこに手を当て、様子をうかがう姿をよく目にします。同様に、当院でも早め早めの手当てを進めたいと考えています。



膝の負担を軽減し、日中の活動量を増やすため、歩行器の使用を検討することにしました。女性の寝室からダイニングまでの距離や家具の配置、

徐々にデイサービスや受診の帰りに居間から寝室までの移動を、車椅子から手引き歩行で行えるようになりました。実践後は、日中居間まで出てきて娘さんと過ごすことが増えるように。また、

80代の女性は娘さんと2人暮らし。加齢に伴う変形性膝関節症で転倒してしまい、ある日を境にほぼ寝たきりに近い状態となっていました。それまでは、娘の食事の準備など、ごく健全な日常生活を送っておられま

したが、体が不自由になつてしまったことで、トイレや移動などは、手助けがないと難しい状態に。次第に黙り込むことが多くなり、何事にも消極的になってしまつた。精神的な落ち込みが激しくなつてしまいました。

娘さんお一人でも介助が可能かどうかについて確認し、最適な介助方法を考えました。それからは、毎日歩行器を使って娘さんと食卓へ歩いていくようになりました。また、食卓の椅子を回転椅子に変更し、椅子の向きを変える時にかかる介助負担を減らしました。

訪問リハビリ

ともに考え、活き活き生活を



ポータブルトイレへの乗が軽介助から見守りでも可能になりました。まだすべての動作を介助なしで行えるというわけではありませんが、徐々に明るい表情や自発的な発言が増えてきました。ほとんどの日常生活動作が全介助だった頃と比べると、自分で起きてベッドから離れることに積極的になり、以前よりも自力で行える動作が増えてきました。

毎週土曜はレクリエーションの日!

楽しい離床で
笑顔があふれる
患者さま



さくら棟では、毎週土曜日、集団レクリエーションを行っています。第2土曜日は、患者様の誕生日会で盛り上がっています。内容は、ゲームや楽器演奏、合唱などです。ささやかですが、お誕生日のプレゼントも用意しています。

また、いつも昼食前には、嚥下体操や歌唱、指の運動などを行っています。嚥下体操は、準備体操としての効果だけでなく、覚醒度の改善にも効果があります。ポータブルトイレなど、食事をとること

は誤嚥や窒息を引き起こすことにつながります。経管栄養の方も嚥下体操に参加し、発声や発語が増えました。

このような「さくら棟の取り組み」は、離床を促し認知機能や身体機能の維持改善に効果を見出すだけでなく、患者さんや職員の日常の生活だけでは見られない表情を見ることができ、お互いの信頼関係を深めるのにも効果があると考えています。

今後、楽しく安心して暮らす療養棟となるよう努めます。

〈さくら棟〉